

# 「いきなり」「突然」「急に」の意味分析 - ベースとプロファイルの観点から -

李 澤熊

名古屋大学留学生センター

leetack@ecis.nagoya-u.ac.jp

## 1. はじめに

(1)町の駅を出てから、まもなくであった。あ、と志乃はさけんで、目をみはった。「見える、見える。」志乃はいきなり(突然、急に)、私の膝を両手でつかんで、ゆさぶった。  
(三浦哲郎『忍ぶ川』:92)

本稿ではいわゆる「時間の早さ」にかかわる副詞「いきなり」「突然」「急に」を考察対象とし、「ベース」と「プロファイル」の概念を用いて、相互の意味の類似点・相違点を明らかにする。

## 2. 前提となる理論

認知文法は、百科事典的意味論の立場をとり、ことばの意味は複数の認知領域において記述される。ある特定の認知領域においても、全ての構造が等しく扱われるのではなく、焦点化され、際だちの大きいプロファイルと呼ばれる部分と、そのプロファイルの背景的要素として機能するベースに分かれる(辻(2002:236))。

初山(2005)は、事物・事態に対する様々な捉え方(の違い)の観点から、類義表現を大きく10に分類している。例えば、「プロファイルは同一であるが、ベースは異なる」ものとして「land [ sea ] / ground [ air ]、陸上 [ 海上 ] / 地上 [ 空中・地下 ]」、「視点の違う」ものとして「shore [ 視点が水上 ] / coast [ 視点が陸上 ]、Aさんが名古屋から東京に行った。 / Aさんが名古屋から東京に来た。」などがあげられる。

## 3. 「いきなり」「突然」「急に」の意味分析

### 3.1. 先行研究

(2)下書きもせずに、いきなり清書用の紙に書き始めた。(浅野(1982:155))

(3)トツゼン地震が起こった。(浅野(1982:159))

(4)ひと雨降ったら花のつぼみがキュウニふくらんだ。(国広(1982:148))

「いきなり」：<ある事態が成立する前に一般的に想定される状況を経ずにその事態が成立する>(浅野(1982:155))「トツゼン」：<ある事態の生じ方が瞬間的であり、その事態と前の事態との断絶が際立っている>(浅野(1982:159))「キュウニ」：<ある事態の生じ方が予想外で

あり、その事態と前の事態との格差が通常より大きい> (国広(1982:149)、浅野(1982:159))

(5)周二が二、三步そちらへ向って歩きだしたその瞬間である。なんの前ぶれもなかった。

なんの予感もなかった。突然、それが爆発した。(北杜夫『楡家の人びと』:1187)

(6)ふっと一吸いすると、昔、煙草で実験した時と同じように、またたく間に煙が口を満たした。何の味もしない。と思ったとたん、急に怖ろしくなってそのまま吐き出してしまった。(藤原正彦『若き数学者のアメリカ』:223)

(7) (写真の説明) 先の見えない右カーブになっています。しかも、この先で道路が急に細くなるので注意が必要。(http://irukakujira.com/denger/k1.htm)

### 3.2. 類似点 (同一のプロファイル)

<話し手が> <ある事柄を前触れなく瞬間的に発生・成立する> <ととらえる>

(8)製図の実習の時間中だった。教場を見廻って歩いていた影村一夫が突然 (いきなり、急に) 大きな声を出した。(新田次郎『孤高の人』:60)

(9)中学の途中まで学年トップクラスの成績だったのにいきなり (突然、急に) 成績が落ち、普通レベルの私立高校に進学しました。(http://www.google.co.jp/)

(10)秋になると、加藤の職場は急に (いきなり、突然) いそがしくなった。小型ディーゼル機関の制作が、急ピッチですすすめられていった。(新田次郎『孤高の人』:576)

### 3.3. 相違点 (ベースの違い)

#### 3.3.1. 「いきなり」と「突然」

「いきなり」の意味: <話し手が> <前触れなく瞬間的に発生・成立する> <ある事柄の> <発生・成立前の状況に注目し> <一般的に想定される手順を踏んでいない> <ととらえる>

(11)接近戦を嫌い、羽草を突き放して、内藤は距離をとった。リードのパンチもなく、左でいきなりストレートを出し、右でフックを振るったが、(沢木耕太郎『一瞬の夏』:989)

(12)夕方、沢野ひとしから電話がかかってきた。

「ねえ、君お金ある？」彼は例によって前置きなしにいきなり用件に入る、というやりかたで、すこし間のびした声を出した。(椎名誠『新橋烏森口青春篇』:395)

「突然」の意味: <話し手が> <ある事柄の> <発生・成立点そのものに注目し> <その様子が> <前触れなく瞬間的である> <ととらえる>

(13)今、ナショナル・ジオグラフィック・チャンネル (ch741) で、「衝撃の瞬間!」をやっているのをみていたら、なんと、ビルが白昼突然倒壊するものだった!

これには驚いた! 1986年3月14日(金)に、シンガポールの6階建てのホテル・ニューワールドのビルが、白昼突然崩れ初めて倒壊し、(http://www.google.co.jp/)

(14)加藤は針を動かす手を休めた。花子の心配そうな顔を思い浮べたからであった。

「大丈夫だ、予定の日までにはきっと帰るから」

加藤は針と糸に向ってそういった。いわずにはおられない気持だった。加藤は針と糸を片づけた。突然（×いきなり）彼は、このまま、花子と二度と会えないのではないかと思った。（新田次郎『孤高の人』:1529）

(15) 吟子がイムヌエルに着いた一カ月後に組合派の山崎という男の妻が、夫が開墾に出かけている留守中に突然（×いきなり）赤子を捨て、家をとび出し、女達が集まっている井戸端へきて仰向けに倒れた。（渡辺淳一『花埋み』:798）

(16) 一つ注目していいのは、ミッドウェーのころから日本が脅威を感じていたアメリカ軍のレーダーが、暗夜でも、無照射射撃で第一弾をいきなり（×突然）命中させるほどの精度を示しはじめたことであろう。（阿川弘之『山本五十六』:1261）

(17) すると、アマチュアの関係者とジムを出ようとしていたエディがそれに眼をとめ、玄関に内藤を呼び寄せ小さな声で言った。

「教えることはいいこと。でも、難しいことをいきなり（×突然）教えてはいけないね。やさしいこと、少しずつ教えるの」（沢木耕太郎『一瞬の夏』:501）

### 3.3.2. 「突然」と「急に」

「急に」の意味 1（＜別義 1＞）：＜話し手が＞＜前触れなく瞬間的に発生・成立する＞＜ある事柄の＞＜発生・成立点の様子（進行過程）に注目し＞＜その進行過程が＞＜何らかの基準に比べて＞＜大きい＞＜ととらえる＞

(18) 常識的には金子ジムへ行くのが妥当だろうが、条件が折り合うかどうか具体的に話をつめてみなければならない。第三に、早く金を揃えなくてはならない。私が三番目だけを除いて言うと、エディはそうねと頷き、急に立ち上がった。

「どうしたの、エディさん」内藤がびっくりして言った。（沢木耕太郎『一瞬の夏』:777）

(19) 夜風を衝いて駆けながら、信長は馬上で何度も涙を掻いぬぐった。木曾川の支流の足近川の土手まできたとき急にあたりが明るくなった。陽が昇った。（司馬遼太郎『国盗り物語』:1893）

「急に」の意味 2（＜別義 2＞）：＜ある事柄の＞＜傾斜・角度等が＞＜何らかの基準に比べて＞＜大きい＞ことを表すと記述することができる。

(20) 八月はじめから中旬まで、水泳が許可されたが、それは一日おきに午後の一時間があてられた。（中略）海は岸から急に深くなっており、（立原正秋『冬の旅』:1067）

(21) 道路が急に曲がる場所にはいろいろと注意を喚起する道路標識が立てられています。上の写真は道路がちょうど直角に曲がる場所に立てられている標識です。

([www.blogmura.com/profile/028719.html](http://www.blogmura.com/profile/028719.html))

<別義 1>と<別義 2>はメタファーによる意味の転用であると考えられる。つまり、<ある事柄の><変化の度合いが><何らかの基準に比べて><大きい>という共通の意味特徴が認められるということである。なお、<別義 1>と<別義 2>の相違点は、「時間の経過を伴うか否か」にある。

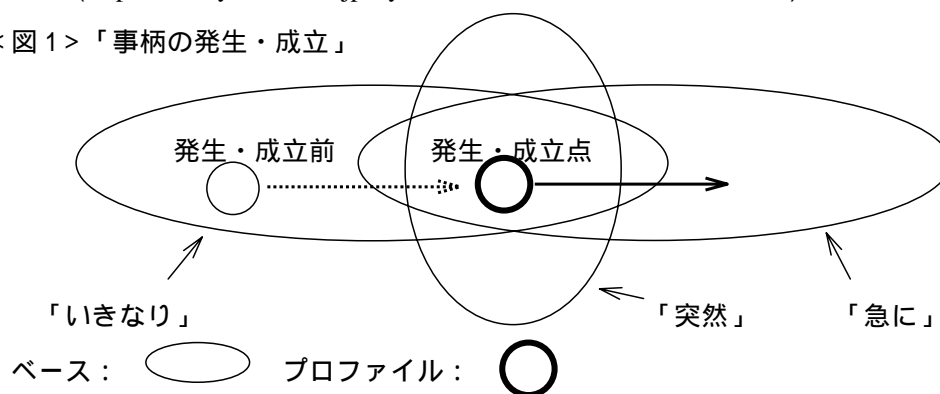
(22)加藤はこの奇妙な名称となんの関係もなさそうな小屋を、立ったまま眺めただけで、先をいそいだ。一刻も早くその上にあるものを見たかったからであった。樹林帯の背の丈が急速にちぢまり、やがて、突然(×急に)彼は一叢の這松を足下に見たのである。(新田次郎『孤高の人』:314)

(23)そのうちに、彼らはその異邦人が少しずつ風化し、その土地になじんで来るのを認めるにちがいがなかった。或る日、突然(×急に)、何気なく通りかかった城の門が、わずかに開かれているのを私は見た。(五木寛之『風に吹かれて』:512)

(24)美恵子は、加藤がこの下宿に来たときから、青白い顔をしていた。学校も休みがちだった。その美恵子もこの一、二年の間に急に(×突然)背が伸びて、おとなびたことをいったり、神経質なほどの潔癖性を発揮したり、(新田次郎『孤高の人』:729)

(25)しかし、出血した時には圧迫時間を長めにすれば必ず止まります。出血に驚いて安易に服用をやめると、血栓を急に(×突然)作りやすくなり病状が悪化することがあります。  
(<http://www.yomiuri.co.jp/iryuu/medi/soudan/20061203ik01.htm>)

<図 1> 「事柄の発生・成立」



参考文献

浅野百合子(1982)「イキナリ・ダシヌケニ・トツゼン・フィニ」, 国広哲弥編『ことばの意味 3 辞書に書いてないこと』, 平凡社, pp.154-160.

国広哲弥(1982)「タチマチ・スグニ・キュウニ」, 国広哲弥編『ことばの意味 3 辞書に書いてないこと』, 平凡社, pp.146-153.

辻幸夫(2002)『認知言語学 キーワード事典』研究社.

初山洋介(2005)「類義表現の体系的分類」, 『日本認知言語学会論文集』第 5 巻, 日本認知言語学会, pp.579-583.